



法興

義經虎卷

中

特	別
75	
73	
20	





虎之卷

守卷

才十三太乃仕秘行之事  
 其説さあひひじうひく陳とん  
 里指とほき我半あらん時樂  
 をせりして説とらうびとを  
 りあめ海とらう決半存の事  
 とぬくわの西をゆくとたの  
 きのらめなまそて天よびひく

虎之卷 中



乃の律呪を六也唱り建八かこ  
 ひゆく教をと神と子七面よ  
 して地まれもと人作る所  
 こと道天帝釈飛降広天乃  
 行あわその真之小曰 呪  
 空飛降広天叫婆多茨頓

才十四 強馬舞系秘術

之幸

乃右のゆと外縛めして小指  
 と大母一とよのく五母く  
 三度乃くあうせくこの神呪  
 と二十一也満とひうあふあ  
 るとよしうひく軍陳よあふ  
 こよの呪め曰



房巻中  
 三

字加農六賀修諦莎賀

才十五弓矢性付秘術

之津

歌といふ弓矢を後ひ普通の  
り矢かわりといふもその人この非  
呪と唱へていふ射といふ城守  
みろと権めはさうとわさ透  
てその歌といふ津と得入

又隣子つていかわらもさうい  
やたしうく只歌といふといふ  
あわさるもその歌め疵といはせ  
を射といふといふの神呪といふ

字射啼吠黙都婆耶莎賀

と二十弓唱へて右のよと巻  
あして右の法といふの事  
と大方いしてわしてたると



房老 四  
 久人者と内へまけくこの所  
 とくさくさく大母しとさあ  
 魚  
 宗 弓 箭 射 之 宗 射 之 宗 射 之 宗 射 之  
 二十 五 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

才十六敵之魂抽取秘

術之幸

我法○よ看る系鬼門の前よ  
穴とあつさ二尺よあつて鬼  
のかしらとあつてはくわく  
款の看家とあつてその鬼乃  
字わくあつてこの神呪と七  
あつてその塚乃うしあつて濃

ハ七日めの朝よ必その款也死  
ふあわ其神呪よ  
空多羅魂命取朽損茨賀  
降三世



才十七款とよく海きく方  
 洋とほつとる世家秘術之半  
 胡月のもろ何にあまわひ  
 海わく流しつゝ糸川おめ  
 ちとさうあまにかきとら  
 ちとのへく二度うらぬり  
 うら振きちおのちと外縛  
 の練兜と唱ありの二十一

龍巻

七





才十八 教と隠へる處へ  
不秘術之平

教はよくしてきつりてきつりてきつりて  
うらふよけんん何ん良方  
めじりひく 旬法利降伏教  
壽天と習へくこの神呪ととる  
西満まぐ三日のゆめその教軍  
とぬきられ降ととるして降

くよありくきつりひあひあわ  
字樓尻降切 依妙蒞賀

才十九 教の神ひうふ  
と覚知秘術之平

大平の教と持つらんぬその教  
のしききつりひく伊賀と  
うのわわ教とたたくわく  
じきせんぬ我はやくあゆみ

うらうらふふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 日のおさけあまのひらひらこころ  
 神呪と三百巻海軍八日天子れ  
 知るべきあふむり家よ歌集のこ  
 神ひうらうらふ羊あふふ町人魁  
 リもあふふふふふふふふふふふふふふふふ  
 小唄うらうらひ神ぬ河へ飛鳥  
 流とふふふふふふふふふふふふふふふふ



又あつらひく告うとまあり其律  
呪よ白

阿日也 茨賀

祢ハ内縛して其明指とおま  
そひその血の甲と大なり一のう  
めくを——自余の指ハそのく  
まらぬ堅ふく人の真んを唱  
ふゆよそのうりうの教ふを

てあつらひく告うとまあり其律  
伏きありあり

才二十 中 交 不 遂 秘 術 之  
半

人 指 の 教 とも 秘 術 係 人  
とらうひ 店 交 乃 口 福 あり 出来  
て 中 交 ぬ も 何 ひ 秘 術 とも なる  
ありあき 操 くり 人 とも あり 大 半



のりなりきやくその中委との  
 あり秘付めんたるのゆと内縛  
 りして中指の血の帯と大母指  
 乃腋ゆくをのくわして黙指  
 とくくは亭々朝父毎よこ乃  
 神呪と唱系半一百姓をよこ乃  
 と中委とのりひく安徳あか  
 へその真言よ回

おん謝寧那良炎荻賀

才二十一歌女取籠くまら

時陳回と道お秘術さる

歌よ取籠くまらく巳よりくまへ

き何月とくまらくくまらく

して幾何女ひくくまらく

うひくまの神呪七と唱くまら

天より傳く疾の勢来く歌り

眼よ入く東西と不承あをひく

天女ゆまひわらん何そのたふ

歌とあわらうらうのくまら

りんのうらうとのうれて勝幸

とる為く真言よ曰

おん婆鉢靈黙羅耶荻賀

大令剛輪り知ん广利支天普祝

合掌のたふもふ



才二十二款 陽恩時可隱

秘術之本

秘術之本  
 秘術之本の如くこの如くか  
 ふうん時その秘術の如くか  
 り目天子の前は室瓶ありこ  
 三六利支天は龍瓶ありあ  
 瓶ありあはひくたれなり  
 中をつらよ美ありてそのと

虎巻 白 十三

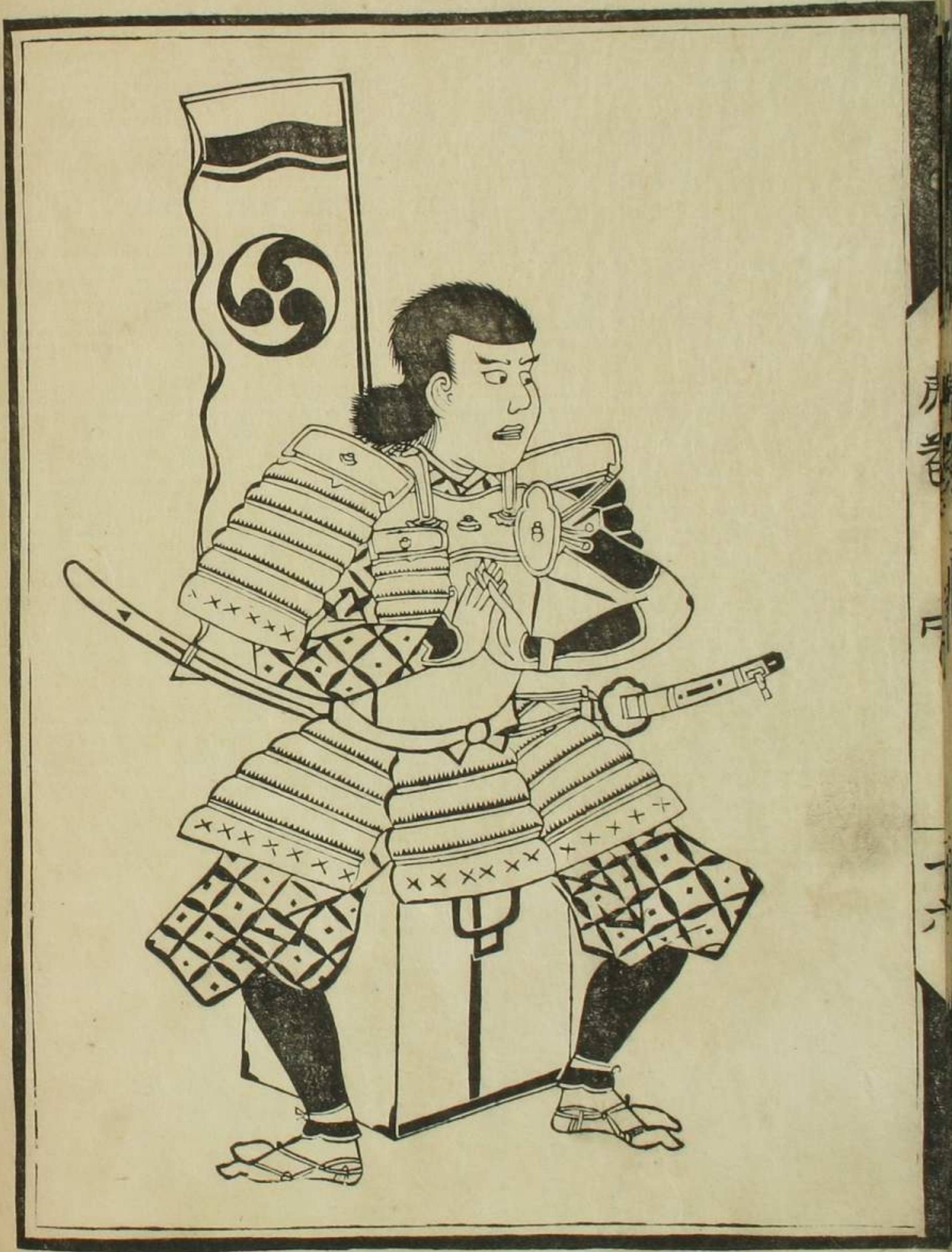
又存の多とららねりふくこの  
神呪也と満れと歌ふくあり  
あり但草よそありゆくとし  
とよりわきしてその新めく系  
愈しにやくなわあまのまて  
はきられぬあり新又歌ふの法と  
あひたかみちりくこころまき  
あまよあらしはあうくせくく系

とねのひくそのくゆくとあ  
るの半多とたかためあひ  
くんとその指乃まきさくありの  
神呪と唱へくみまんとかあり  
とみゆふありかつのくそれと  
かあり真言よ曰く傳法輪  
かあり支哉茨頃  
この神呪をくると満れくその歌





よくねく響とのゆくのま  
 めつかつひく七日の神よ其  
 訪とわりほ 失あわさ  
 六利支天れ三味入るあ  
 又そのくをと及あそその  
 真言よ云 地結印  
 方 顕覧吠叫 茨賀  
 の神恐と色を満く前の方の



指のあしよりみまへへさへく  
 きしとるさみわすまへくその  
 敵をうらみあり

才二十三 敵打込安ん安

覚知之事

敵とうらみよけ時そのあは隣  
 家めくともその隠の仲も  
 鼻ひそまのあんなれんをさ

いへはあゝひ乃軍よめへ  
 せあは敵のこめあうゝあ  
 瑞おありは程と帝尺とれ金  
 我よは程あこめ法とあゝあ  
 有ぬ鼻ひあを空もおさう  
 次りまひかおまじくあめ  
 負ふあり帝尺あこの法と  
 ちあよゝんくうら勝平と  
 得こちあは

わひかりへ鼻ひふこあを  
 みるその敵とうらぬ行  
 へう次若鼻ひあときま  
 くるもあゝひうそそ  
 咳へう次ハうそそ  
 向ちとみあうら備て  
 ち方戦ちつ一  
 路へ三長あめあ  
 ちて叔方とらほ  
 ちと漲兵との軍  
 れ緒とちあ備て



へーうれ真々よ云  
 普印  
 字阿六多率々叫々茨賀  
 かくれとく唱ある半廿戸一  
 活しんたふひ鼻ひあとき  
 こちももようふひさあゆ  
 登あてしおあくとりつ  
 みありのひりて死半まへ  
 ありのち率一あしあま



魚

才二十回款之為不た敏

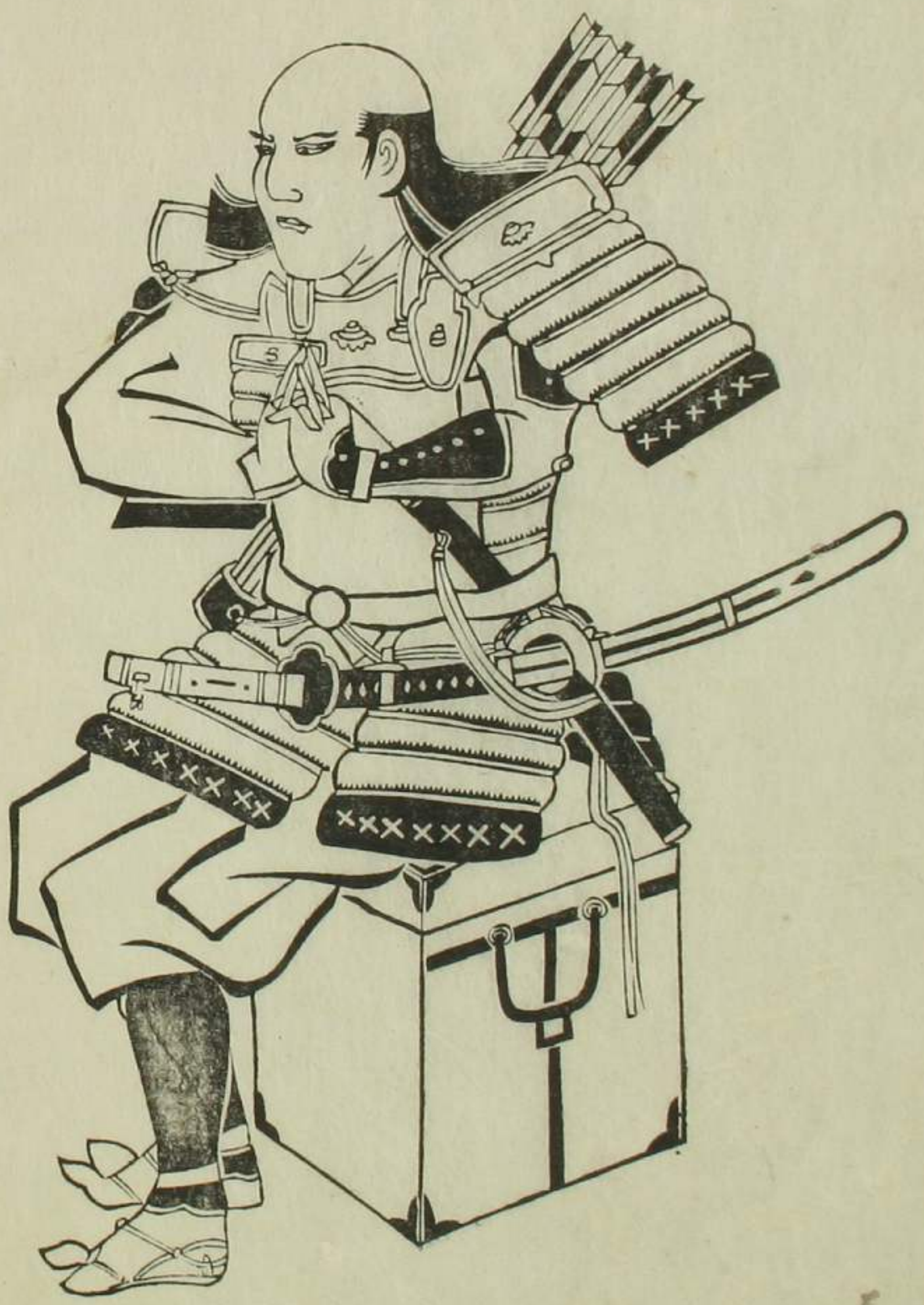
秘術之幸

款うらみけり時八年れおまじり  
 ひくたろもと巻あめて  
 腰のわきに宝有のゆとのそ  
 ひ孫の前よ撲らん中指乃  
 中ぎいと内へおめて心りて

さしと奉<sup>ニ</sup>度<sup>ニ</sup>してその神呪  
女<sup>ニ</sup>巨<sup>ニ</sup>濃<sup>ニ</sup>と真<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>  
空路<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>婆<sup>ニ</sup>羅<sup>ニ</sup>摩<sup>ニ</sup>駄<sup>ニ</sup>覽<sup>ニ</sup>苾<sup>ニ</sup>芻<sup>ニ</sup>  
その神呪と唱<sup>ニ</sup>へ<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>詠<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>び<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>  
守<sup>ニ</sup>護<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>童<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>慈<sup>ニ</sup>護<sup>ニ</sup>  
と蒙<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>戦<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>詠<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>  
う<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>奉<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>  
又<sup>ニ</sup>詠<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>び<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>阿<sup>ニ</sup>ハ<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>神<sup>ニ</sup>呪<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>心

唱<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>

才<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>款<sup>ニ</sup>合<sup>ニ</sup>戦<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>と  
と<sup>ニ</sup>疵<sup>ニ</sup>不<sup>ニ</sup>蒙<sup>ニ</sup>秘<sup>ニ</sup>術<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>奉<sup>ニ</sup>  
巽<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>角<sup>ニ</sup>よ<sup>ニ</sup>び<sup>ニ</sup>う<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>た<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>多<sup>ニ</sup>と  
外<sup>ニ</sup>縛<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>て<sup>ニ</sup>明<sup>ニ</sup>指<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>頭<sup>ニ</sup>指<sup>ニ</sup>と  
と<sup>ニ</sup>真<sup>ニ</sup>の<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>こ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>神<sup>ニ</sup>呪<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>唱<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>  
女<sup>ニ</sup>つ<sup>ニ</sup>る<sup>ニ</sup>を<sup>ニ</sup>れ<sup>ニ</sup>く<sup>ニ</sup>何<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>戦<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>疵<sup>ニ</sup>と<sup>ニ</sup>蒙<sup>ニ</sup>  
さ<sup>ニ</sup>か<sup>ニ</sup>あ<sup>ニ</sup>り<sup>ニ</sup>その<sup>ニ</sup>真<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>め<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>



少謝曩羅成帝曩運蒞賀

才二十六疵とがうあて

よりはるるを幸あれ八疵

と蒙あよ大小心の海を

ふ秘術之幸

若くありて軍よかく戦幸

あしよその勤功乃賞と貪て

疵と蒙とやとおもらん八角



穴<sup>あな</sup>婆羅密<sup>ばらみ</sup>多<sup>た</sup>哩<sup>れ</sup>謝<sup>しゃ</sup>茂<sup>もう</sup>賀<sup>が</sup>

のちめじりひくち者<sup>もの</sup>格<sup>か</sup>とこ  
 おくめくその能<sup>の</sup>り甲<sup>か</sup>とわて  
 申<sup>まを</sup>格<sup>か</sup>ととて我<sup>われ</sup>きととて蒙<sup>もう</sup>也<sup>や</sup>  
 かもくんあつととてこれ神<sup>かみ</sup>咒<sup>まじ</sup>  
 と唱<sup>なま</sup>あふの平<sup>へい</sup>一<sup>いつ</sup>とを<sup>を</sup>しれと格<sup>か</sup>ふ  
 可<sup>か</sup>よ<sup>よ</sup>慈<sup>じ</sup>と蒙<sup>もう</sup>ふのわその真<sup>ま</sup>言<sup>ごん</sup>よ  
 曰<sup>いは</sup>



才二十七 五々々々 めて物具  
あつ家 歌 ぬじしきもしう  
乃 忍 ぶさき 秘術之 半  
歌 ち物具 一 一 一 一 一 一 一 一  
て び 一 一 一 一 一 一 一 一  
ぬ じ 一 一 一 一 一 一 一 一  
一 一 一 一 一 一 一 一  
て 一 一 一 一 一 一 一 一

あひちうはきく外 一 一 一 一 一 一 一 一  
三度 一 一 一 一 一 一 一 一  
ひきのあふ 半 一 一 一 一 一 一 一  
うわ 一 一 一 一 一 一 一 一  
肩 一 一 一 一 一 一 一 一  
の 一 一 一 一 一 一 一 一  
して 頭 一 一 一 一 一 一 一 一  
あ 一 一 一 一 一 一 一 一

とまたる次平八持のひ乃よわ金  
 剛の糸とかしして軍曹とちと  
 してきまの心あわりのらよた右  
 のよと歌へ奉て糸々る次平  
 八の金剛の甲とまの心あわそ  
 う真言み曰 披甲護身所  
 必覧南嚙咩當咩莎賀



巻  
 中  
 三  
 五

才二十八一人して万路  
 の歌女遇を其怖  
 之秘術之幸

自乃方めじくひく存の身を  
 卷めして頭をわたく推く  
 たの身を腕にわたくよわものを  
 てひそのうつめ者の身を三  
 へひうち破るめくしてこの

真言を満ハその行は  
 へひふ万路の歌女にけ  
 遇ともあへくうさるひ  
 ちとつ一人南のひあのと  
 りあわりの神呪也  
 俱曾々々選帝羅婆菰



才二十九 款よ狩合箭

撞けくく系阿天

乃矢と備之奉

款よあひ戦ぬ日とくさるの衆  
と食くいさみさうまの阿よ  
城のうられ矢撞けくくて已  
ぬ款かのよ衆く城をわぶ衆  
りかめさうかめ魚さん

時良のこゝめびらひくたの  
 大りしとぬくはししじやう  
 一少指の所の甲とあつく  
 のひわく外へびらひくたの  
 多しぬく人上駈のあつく  
 ちく持くもの真まを満  
 方盧遮那羅矢射那苾芻



この真らと女つた満とハ赤色  
 の夜まつり天臺考とく  
 兼りてその款とよんあ  
 運名めうきんやうの地  
 かわその金とん事とくこの矢  
 うせふあわ

才三十 款とうら合乃時

太刀 七刀 折よその替

と儲之半

款とうらあつた乃七刀が  
 ときくおしあえうわさるん時と  
 卯のたよびひく存のま  
 ちり一の能乃甲とくしては  
 一申指とあのかくまの  
 了そかいら胸たあのかを  
 認してこの真らと三十三



満ちてん天よりわたりたりその人  
 の心めりうせくおんせりあわ  
 うまこと羽ひひ平ぬきハハ乃  
 おんせり太刀長刀さあうせへ  
 —その神呪よめく  
 庵農悉靈叫婆羅蜜多叫茨  
 賀









明持の成のかうと大方の腹  
 までなうくたの大方と  
 内英よむさめはとと  
 かめまくこの神呪と女戸  
 満れとねめ守うわのきさか  
 よはり次ちりきりさの  
 法とつふ又と海竜王の法と  
 とつあり真言と曰



今難陀杖難駄哉茲賀  
 又乍ハ右乃多由ととくみ  
 活よく喜くたの大方一の  
 どのみよ右の大方一れと  
 のみしとくしらすひここ  
 ころ禊祀と満ふあわあき九  
 頭竜王の乍明このあわ

虎之卷中之終

